

107 明治の子どもたちと浮世絵 (2022年4月14日)

パリ日本文化会館で「文明開化の子どもたち」《Les enfants de l' Ere Meiji》展が開催されています。19世紀後半、日本は約200年間の鎖国を終えて開国し、幕藩体制は終わりを告げ、1868年に明治時代が始まりました。日本は、急いで近代国家を造るために、欧米諸国の社会制度や文化を取り入れました。文明開化と言われ、人々の生活は大きく変化しました。



例えば、明治時代になって日本で最初の鉄道が開通し、電灯がとまり、郵便制度ができました。着物から洋装に変わり、西洋諸国の影響を受けた食生活に変化しました。国会が誕生し、初めての選挙が行われたのもこの時代です。

以前に、江戸時代に浮世絵は、ポスター、旅行ガイドブック、広告など様々な役割を果たしていたことをご紹介しました (*). 明治時代になっても、浮世絵は人々の生活で用いられました。

江戸時代の子どもたちは、寺子屋で読み書きや計算を学んでいましたが、学校のように就学年数や教育カリキュラムは定まっていませんでした。明治時代になって、子どもたちは学校へ通うようになりました。この展覧会では、当時の子どもたちが使った英単語帳(写真)や図鑑の役割を果たした「教育錦絵」を見ることができます。英単語帳には、絵付きで英語、日本語訳の漢字とカタカナ表記が印刷されています。現代の日本語とは、使われている漢字とカタカナ表記が少し異なります。当時の子どもたちは、学校で初めて見るアルファベットをどのような気持ちで学んだのでしょうか。



また、子どもたちが玩具として使った「おもちゃ絵」も展示されています。例えば、歌舞伎役者といくつものかつらが印刷されているおもちゃ絵があります。子どもたちは、これらを切り抜いて、役者とかつらを組み合わせて遊びました。

パリの日本大使館員がフランスで見つけた日本

双六も見ることができます（写真）。双六のマスには、サイコロの目の数によって次にどのマスに進むか書かれています。複数の人が順番にサイコロを振って、一番最初に「上り」のマスに到達した人が勝ちです。おもちゃ絵は、子どもたちが遊びで使いましたので、綺麗な状態で残されているものは貴重です。



当時子どもたちの愛らしい姿を描いた浮世絵も展示されています。子どもたちが使った浮世絵と子供たちを描いた浮世絵を通して、文明開化の時代を生活した子どもたちの生活を知ることができる展覧会です。



* 60 「マルチメディア」浮世絵（2021年5月27日）

<https://www.fr.emb-japan.go.jp/files/100194495.pdf>

パリ日本文化会館「文明開化の子どもたち」展（2022年5月21日まで）

<https://www.mcjp.fr/ja/agenda/les-enfants-de-lere-meiji>